



岩手県政150周年記念
(R4～R8)

記者席配付資料
令和6年4月26日
ふるさと振興部ふるさと振興企画室

岩手県政 150 周年記念動画及びパネルについて

岩手県政 150 周年に向けた機運醸成のための動画及びパネルを制作しました。

1 150周年記念事業の趣旨、期間

県民の皆様とともに、岩手の歴史を振り返り、本県発展の基礎を築いてきた先人の偉業と努力に感謝し、ふるさと岩手に思いを寄せ、岩手の未来を展望する機会とするもの。

【県政150周年期間】令和4年(岩手県に改称)～令和8年(県域確定)

2 動画について

- (1) テーマ：「岩手県の軌跡 — 150年の歩みと未来への懸け橋」
- (2) 内容



「輝く歴史編」の一場面



「未来への懸け橋編」の一場面

	長さ	ねらい、構成
輝く歴史編	3分49秒	<p>明治時代から令和時代の出来事、先人たちの偉業や県民の努力等を伝え、岩手県の150年の軌跡を表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング(菊池雄星・大谷翔平・小林陵侑・佐々木朗希選手の活躍) ・明治(官営釜石製鉄所、釜石鉄道など近代化への開発) ・大正(岩手軽便鉄道、松尾鉱山、原敬・新渡戸稲造・後藤新平の活躍) ・昭和(三陸大津波、カスリーン台風等、五大ダムの整備、高速交通の発展) ・平成(四大イベント、世界遺産登録、東日本大震災津波からの復興等) ・令和(ラグビーワールドカップ2019日本大会、世界遺産登録、全国植樹祭等)
未来への架け橋編	1分48秒	<p>岩手県の取組や次代を担う世代の姿を通じて、未来への展望、期待感を表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の進行中プロジェクト(DX、GX、若者活躍) ・地域社会への取組(岩手大学・県立大学の学生の活動等) ・岩手の子どもたち(創立150周年小学校、スーパーキッズ、北上翔南高校鬼剣舞部) ・若者の活躍(小林陵侑・伊藤ふたば選手の活躍) ・未来の可能性(ヘラルボニー、起業家支援、地域おこし協力隊等)

※15秒 ダイジェスト版も制作

- (3) ナレーション 浅沼晋太郎 氏 (盛岡市出身、声優、希望郷いわて文化大使)
- (4) 公開

動画については、4/26(金)から県公式動画チャンネル (YouTube) 及び 150 周年特設ホームページに掲載するほか、4/27(土)から千葉県で開催される「ニコニコ超会議」岩手県ブースや県民室でも上映するなど様々な機会を通じて県内外に向けて発信していくもの。

特設ホームページQRコード→



3 パネルについて

(1) 概要

岩手県の150年の歩みの中から、「社会資本の整備」、「農業」、「商工業」、「林業・水産業」、「自然と観光」、「文化と伝統」、「スポーツ」、「教育」、「医療福祉」、「災害」の10の分野の主要なトピックスについて紹介したものを。

(2) 仕様

サイズ A0縦（スポーツの「世界に羽ばたく岩手のスポーツ」はA1縦も作成）

枚数 11枚

(3) その他

- 「世界に羽ばたく岩手のスポーツ」と題し、MLBジャパンから、大谷翔平・菊池雄星選手の画像を提供いただき制作したものを。
- 今回のパネルは、令和4年度に制作した歴史紹介パネルの中から、分野ごとに主要なトピックスを取り上げ、内容について紹介したものを。

(4) パネル展示

令和6年4月26日(金)12:00~5月17日(金)17:00

岩手県庁 1階県民室

※記念パネルのトピックス版の展示は今回が初めてとなります。

※当該パネルのほか、MLBジャパンから提供いただいた大谷翔平・菊池雄星選手の画像の大型パネルも展示します。

(5) 今後の展開

- パネルの内容については、今後、県政150周年のホームページに掲載予定。
- 県内外で開催される県政150周年関連イベントや公共施設、教育施設、商業施設等で実施する巡回展示を通じて、情報発信を行っていく。

社会資本の整備

 クローズアップ

テーマで振り返る 150年の歩み

災害に備え、地域の産業、経済を発展させるため社会資本の整備が行われてきた150年

五大ダムの整備がもたらしたもの

五大ダムは地域の重要な歴史的土木構造物として評価され、令和3(2021)年度の「土木学会選奨土木遺産」に認定された。

大正期の物部長穂博士による多目的ダム計画論に始まり、一関市出身で戦災復興院総裁を務めた阿部美樹志らの尽力もあり、昭和28(1953)年「北上特定地域総合開発計画(KVA)」が閣議決定。治水から農地開発、都市計画、発電等の事業により、いくつもの役割を持つ五大ダム。洪水抑止と産業発展を担うこの水源地開発は、地域の志願でもあり、国と県を挙げた大事業であった。

五大ダムの位置図

- 舟形ダム
- 大谷ダム
- 大淵ダム
- 大内ダム
- 大野ダム

岩手の土台を作り上げた先人たち

初代岩手県知事の國分謙吉と二代目知事の阿部千一の遺徳が、五大ダムを含む戦後岩手の土台を作り上げた。県立病院の体制づくりのほか、県庁舎、いわて花巻空港などがこの時代に整備されている。

國分謙吉

阿部千一

復興道路がつなぐ東北

復興道路等は、東日本大震災津波の復興のリーディングプロジェクトとして、かつてないスピードで整備が進められ、発災から10年目の令和3(2021)年12月に全線開通した。

復興道路の整備により、新たな道路ネットワークが構築された。都市間の所要時間の大幅な短縮により、物流、観光、救急医療、防災など様々な面での効果を発揮している。また、沿線に整備された「道の駅」は、道路利用者に休憩機能等を提供するとともに、復興道路と一体となった観光振興等の効果が期待されている。

復興道路等による所要時間の短縮

鉄道と空路で拓かれる岩手

東日本大震災津波からの復興を遂げ、平成31(2019)年に日本最長の三セク鉄道となった三陸鉄道リアス線や、平成14(2002)年に開業したIGRいわて銀河鉄道などが、県民の生活を支えるとともに観光資源にもなっている。

いわて花巻空港では平成30(2018)年に花巻一台湾間で初の国際定期便が開航。世界に開かれた玄関口としての活用が期待されている。

三陸鉄道「リアス線」全線開通の様子
いわて花巻空港
花巻一台湾間定期便開航記念水着パフォーマンス

日本の鉄道の礎を作り上げた岩手の先人

初代鉄道総裁を務めたのが奥州市出身の後藤新平であり、二代総裁は豪傑であった。彼は地方鉄道網の延長に力を注ぎ、これが今の日本の鉄道網の礎となっている。

後藤新平

豪傑

スポーツ

 クローズアップ

テーマで振り返る 150年の歩み

岩手から全国、世界へ羽ばたく若者たちの活躍と、スポーツが岩手にもたらすレガシー

世界に羽ばたく岩手のスポーツ

Major League Baseball trademarks and copyrights are used with permission of Major League Baseball, Inc. © MLB.com.

2023ワールド・ベースボール・クラシックで、大谷翔平選手や佐々木朗希選手がチームの中心として侍ジャパンを牽引し、「世界一」の栄冠に輝き、大谷翔平選手は大会MVPも獲得した。

メジャーリーグでは2度のMVPとアジア人初のホームラン王を獲得した大谷翔平選手や、菊池雄星選手の活躍、日本プロ野球では完全試合や13者連続等三振を達成した佐々木朗希選手の活躍があり、岩手県の子もたちに大きな夢を抱かせ、県民に感動をもたらした。

北京2022オリンピック冬季大会では、スキージャンプの小林陵侑選手が個人で金銀2個のメダル、スキースノールディック複合の永井秀昭選手が団体に銅メダルを獲得したほか、スノーボードの岩淵麗奈選手が女子ビッグエアで4位入賞するなどの活躍があった。

スポーツクライミング競技では、クライミングワールドカップいわて盛岡2022などで、伊藤ふたば選手が活躍している。

大谷翔平

菊池雄星

佐々木朗希

岩淵麗奈

小林陵侑

伊藤ふたば